

「手づくり弁当による活動資金づくり」 —「祝通帳」の夢かなう—

雄武漁業協同組合婦人部
千葉 ユリ子

1. 地域の概況

私達の町、雄武町は農・林・漁業といった第一次産業を主力とした、人口約6,000人の町です。オホーツクラインのほぼ中間に位置し、毎年1月中旬には流氷が姿を表し、1月下旬から最盛期となって、海明け（平年3月14日頃）までは海水面が流氷に覆われ厳しい自然の中にあって、郷土愛に満ちた素晴らしい町です。

町は文化5年（1808年）に開拓の鍬が打ちおろされて以来、先人のたくましい開拓精神と、たゆまぬ努力により今日の我郷土の礎が築かれました。この先人の進取と自立の精神を受け継ぎ、産業基盤や生活環境などの整備充実に取り組み着実に発展を遂げ、現在に至っています。（図-1）

2. 漁業の概要

私達の所属する雄武漁業協同組合は海岸線32kmに4つの港を有し、正組合員126名で構成されています。平成9年度の主な漁業の水揚金額は、ケガニ662百万円、ホタテ桁曳1,117百万円、ホタテ稚貝498百万円、サケ定置570百万円、カレイ刺網92百万円、底建網146百万円、タコ150百万円、ウニ100百万円、コンブ146百万円と内水面漁業権も有し、シジミも若干の漁獲があり、その他漁業の水揚金を含めて正組合員の取扱金額は、3,593百万円となっています。増殖事業としては、将来に亘り根付資源の安定した生産のため、ウニの深浅移殖を行っています。また、沿整事業としてウニの餌料作りのため海藻類増殖施設の設置を一地区で行い、その結果、平成8年、9年の施設ではコンブが生育し良好な効果が表れ、今後各地区に造成していく予定です。

3. 婦人部組織及び運営

昭和38年、雄武・沢木両漁協の合併に伴い、私達婦人部も昭和42年に合併、雄武漁協婦人部として新たに発足いたしました。四十年前、私共の先輩方が貧しさの中から「一日十円貯金」を始めたのが、やがて月掛貯金となり、これが漁協婦人部創立の根源となって、現在漁業系統組織の一員として活動をさせて頂いています。

現在、正組合員数126名の中にあって婦人部員は109名です。組織は5つの支部に分かれ、各支部より推薦で15名を役員に、部長は全体の中から選挙で選びます。部長1名、副部長2名、理事9名、書記1名、会計1名、監事2名の計16名の役員構成です。

と、同時に資金がなければ何も出来ないことや、自分一人の微力さを痛感しました。そして、自分の心の中に婦人部活動によって多少なりとも婦人部独自の財源を持つとういうことを強く感じました。

現在まで、四年間協力を頂いて弁当作りを続けてきました。お陰様で、昨年10月のみな貯金日には婦人部の定期貯金50万円を作ることが出来ました。四年前の苦しみを思えば夢のようでした。このお金は後継者に、四十周年、五十周年の記念式典のために使って頂くようお願いしています。今後もこの手作り弁当の販売を続け、この夢を大きく積み重ねて行くことを心から願っています。(図-2参照)

またこの財源によって、私の念願であった後継者の結婚祝いを差し上げる余裕も出来ました。そのお祝いはどのような形が一番望ましいかを考えた時、人生を共に歩む二人が、幸せと夢を叶えることの出来るように貯金通帳の形で差し上げたいと思いました。

平成9年5月、北見地区のマリンバンク推進委員会が佐呂間漁協で開催された際、自分が思い続けていたお祝いの通帳のことをお話しました。

信連に多大なご尽力を頂き、一年をかけ、平成10年の春に「祝通帳」が出来上がって来ました。本当に夢のようでした。でも、その時自分の脳裏を駆けめぐったのは、婦人部や系統の仲間に、この通帳が受け入れられるか？そして、信連にご迷惑を掛けるのではないかと恐れさえ感じました。その後、「利用させていただきますよ。」、とか「先月お友達の所でお目出度があったので、出産祝いにお上げしようかと思っています。」など色々耳に届き、本当にうれしく、心が高鳴る思いでした。私達も結婚、出産、入学、進学祝と利用していきたいと思います。

そして今年、婦人部から念願の「祝通帳」に1万円のお祝い金と貯金箱を添えて二組のカップルのお嫁さんへ差し上げることが出来ました。

この「祝通帳」が、長い年月を掛け、地区から全道、又全国へと根をはり、いつか大きな大輪の花開く定期積立貯金となってくれることを、心から願っています。

ふりかえてみれば、数ある活動の中で得た収益金を、「今日は人の身、明日は我が身。」と思い、海難遺児育英会基金に少額でしたが協力できたことも、私の心の中にあたたかく残った活動の一つです。

6. 波及効果

雄武産毛がに、ホタテの手作り弁当によって地域の主要行事に仲間入りできたことは、魚食普及活動の一環としても意義あるものでした。産業祭りでは、私達婦人部の手作り弁当を楽しみに来雄して下さる人達が年々増えています。

お弁当作りを通して若い部員達が率先して参加してくれることで、婦人部の絆が強まりうれしく思います。そして、この活動の中で団結することによって「積小為大」の言葉のとおり、小さな積みかさねがいつか花開く事を感じてくれたことと思います。

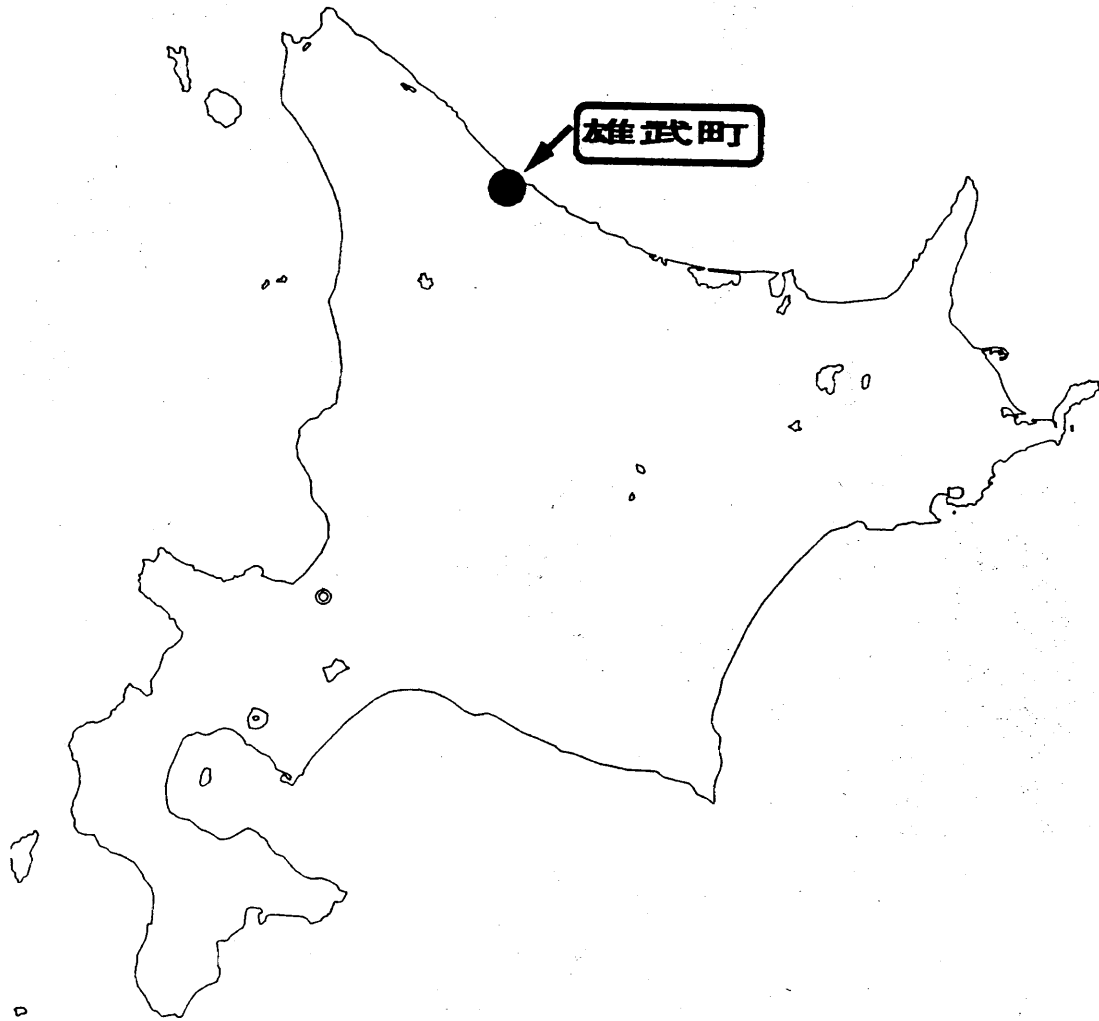
今後も雄武町の活性化と、魚食普及の活動としても永く続けていきたいと思っています。

7. 今後の計画と問題点

婦人部活動があまり好まれない風潮の中で、今こそ時代の流れを充分知ることが大事だと思います。海に依存して生きている以上、漁業協同組合に係わる「組織活動」は重要であり、少しでも婦人部活動を通して一人一人に深く理解して頂きたいと考えています。そのためにも、活動で得た収益金により一人でも多くの若い部員達を、「意識改革」のために、研修の場や各系統組織の大会等へ、積極的にさせていきたいと思っています。

ともすれば「今の若い者は…」と言われますが、私も婦人部に入った当時は色々活動をしている先輩達の姿を見て、初めは人ごとの様に思い、時の流れるまま活動に参加していたように思います。各組織のつながりがあるから、今日の自分達の生活があることを心から感じた時は、頭に白い物がチラチラ見え隠れしてきた頃のように思います。組織の活動とは、時代の流れとは、そんなものではないでしょうか。

子供達が小さくて、充分お手伝いが出来ない婦人部員も、いつかは戦力になってくれることを信じて、先輩方々が努力と苦勞を重ねてきた婦人部の活動を、組合はもとより系統組織の皆様のお力をお借りし、地域に根ざした雄武独自の活動を続けて行きたいと思っています。



流氷



1月中旬には流氷が姿を表し、接岸初日は
平年1月19日頃です。1月下旬から最盛
期となり海明け（平年3月14日頃）まで
は海水面が流氷に覆われます。

写真 - 1



写真 - 2

写真 - 3

